



精神障害者の退院・早期就労サポート事業

社会福祉法人

やおき福祉会

(和歌山県田辺市)

平成19年度長寿社会福祉基金「特別分」助成団体

DATA

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町22-15

TEL: 0739-24-2013/FAX: 0739-26-9452

医療機関等との連携により、地域に根ざした精神障害者の生活と就労の支援活動に実績を有している「やおき福祉会」。長い歳月を経て、着実に取り組まれている活動には各方面より高く評価されています。

今回、全国各地で行われている精神障害の地域生活支援、地域の理解力の促進、障害者を抱える家族の支援及び就労支援にとって、大変参考になる「やおき福祉会」の取り組みにスポットを当てました。



大自然に囲まれた
すばらしい環境

JR新大阪駅より「特急くろしお」に乗ること2時間余り。右手には紀伊水道が広がり、左手には紀伊山地がそびえ立つロケーション。紀伊山地には、和歌山県、三重県、奈良県3県にまたがる熊野古道があり、世界遺産に登録されています。

熊野古道のメインルートは中辺路なかへちといわれていますが、今回取り上げる「やおき福祉会」は、その中辺路のある和歌山県田辺市に多くの施設が点在している社会福祉法人です。都会の空気に慣れている人が大自然を訪れると、とてもすがすがしい気持ちになります。そのような環境でリハビリテーションをすることで、効果も増すのではないかと感じました。

やおき福祉会は、田辺市をはじめ和歌山県の面積の約3割を占めるといふ紀南地域において、精神障害者の生活支援・就労支援を行っています。まずは法人の拠点である事務局でお話を伺いました。



各方面の連携・協働によって

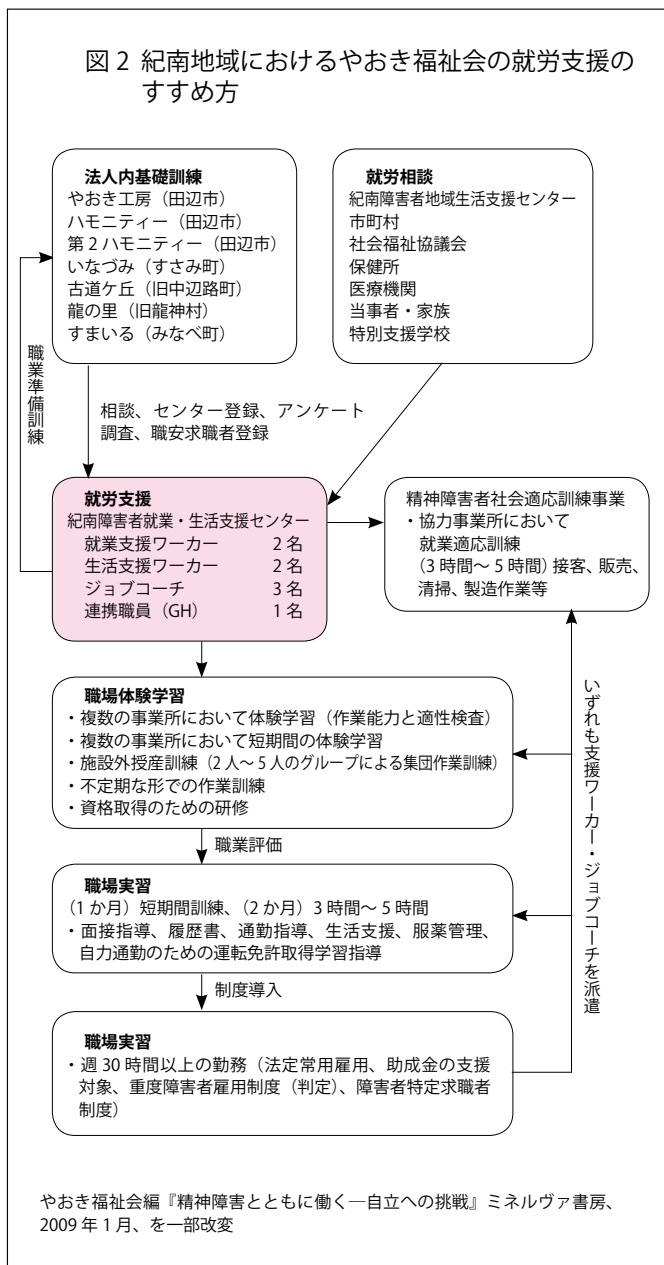
法人の事務局は、後述する障害福祉サービス事業所就労継続支援事業B型「やおき工房」に隣接しています。この付近は田辺市の福祉ゾーンとされており、介護保険施設や訪問介護ステーション、薬局などが軒を連ねます。また、独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センターや紀南こころの医療センターという医療施設も法人事務局からすぐのところであり、当然、やおき福祉会と連携できる環境にあります。

やおき福祉会の理事長である川崎元さんは、紀南こ

ころの医療センターの前身の紀南病院時代から長きにわたり、精神科医師として地域の精神科医療に貢献されてきました。川崎さんは、以前より、精神科医療だけでなく地域の福祉の全体として連携することで、より効果のある精神障害者への支援ができるのではないかと感じていました。常務理事の柳瀬敏夫さんも、やおき福祉会設立以前から福祉従事者として紀南地域の精神障害者支援にかかわる中で、川崎さんと同様のことを考えていました。

1990(平成2)年頃、柳瀬さんが当時所属していた知的障害者の生活支援を実践していた「ふたば福祉会」と、紀南こころの医療センター、保健所地域の精神障害者家族会が連携して、田辺市内にサロンを作ったのがきっかけで「やおき工房」ができました。ここから1996(平成8)年の法人設立まで、川崎さんはじめ関係者皆さんのご尽力により難題をクリアしていくことになりました。

ある時、やおき工房の近隣の住民から、「精神障害者の作業所・授産施設があると、日常生活が普通に送られるのか不安だ」との声が上がったそうです。川崎さんも「無知から来る偏見」として心を痛めたそうですが、「精神障害者やその家族や支援者と、近隣住民とで話し合いを行いました。何度か重なるうちに、住民の方々も精神障害に対して理解されるようになり、はじめはやおきに対して否定的だった方々も徐々に心を開いてくれました。その後は、別の事業所を開設する際や、作業所の業務についても協力していただくようになりました」とのことです。医療・福祉従事者のみならず、地域の社会資源である「住民」とも一体的になることができました。その後も地域住民の方々は、大きな力でやおき福祉会を支えています。



れと併せて、やはり日々の支援が重要です。「就労だけでなく退院も早期であることが求められる。早期であるということは、本人の意欲があるうちに生活リズムを確立することにつながる」とのこと、家族会などの協力を得ながら柔軟かつ弾力的に対応しています。

例えば、60代の方で就労するのは少々難しいかもしれないけれど、退院して生活することが可能であればそちらをメインにすることで、その人に添ったプログラムも可能になります。

ただ、現状では、「比較的軽微な症状の軽い人は退院から早期の就労にこぎつけることができる。けれど、どうしても症状の重い人ほど年数を重ねて、入退院を繰り返すこともある」と二極化の傾向があり、その部分についても何か支援を考えていくようにしたいと川崎さんは決意を新たにされているようです。

23ページの図1にあるように、やおき福祉会には20余の事業所があります。その中からいくつか紹介したいと思います。

まずは法人事務局に隣接している「やおき工房」です。「利用者さんが元気になるような活動になるように心がけています」というのが所長の中島健慈さん。「以前は、孫請け、曾孫請けのような仕事も行っていましたが、どうしても納期に追われることになり、利用者さんのためにはならず、職員にとってもつらかった」とのこと、平成18年度末で主力を担っていた製本業務はやめたそうです。その代わりに、仕事を通じて地域貢献ができ、かつ、お客様から直接請けられる「よろずや業」を始めました。それに

よろずややおき工房

より「利用者か紀南こころの医療センター内などで、自ら営業活動をして仕事をもつてくることもあります」と中島さんは頼もしいに言います。例えば、病院の待合室で診察に来る地域の方々と看護師さんと話すうちに、その人たちのニーズを引き出して、草刈りだったり、引越しの手伝いだったり、作業をもつてくるのです。お客様から「ありがたうな。やおきさんのお陰で助かった。また頼むで」と声をかけてもらって、彼らは自信をつけていくのです。

それだけでなく、幅広い彼らのニーズに応じるため、企業内の空気を肌で感じ、就労意欲を喚起させる目的で「企業内授産事業」も行っています。地元新聞社内にて発送用の新聞紙を折り、全国各地に発送先の帯を巻いた上で送る業務を担当しています。「これからも利用者の労働意識を高めるのに有益なメニューを構築するべくアンテナをはって情報を得るようにします」と前向きに中島さんは言います。

熊野の里にあるバンガロー

続いて「古道ヶ丘」「第2古道ヶ丘」です。こちら



やおき工房の職員（後列右側が中島さん）



古道ヶ丘の全景(上)。バンガロー。GWから秋口までが特に賑わう時季(中)。八重桜をバックに古道ヶ丘の職員と利用者たち(下)

は完全に保養地といった外観で、何も知らない人にとっては、こちらが精神障害者通所授産施設や就労継続支援事業所であるとは想像することができません。所長の西脇潤さんは「利用者さんは清掃など施設管理や、喫茶の運営など多くの業務に取り組んでいます」と言い、「大自然に囲まれた中で、だんだんオープンになってくる利用者さんの中にはいます」と続けました。

熊野三山詣の主要ルートである熊野古道の中間地点にあたり、昔から休憩場所として栄えていた地域です。単なる観光地としても古道ヶ丘は楽しめますが、観光用パンフレットにも「当施設では障害者を持ったメンバーが働いている」としっかり掲載されています。当然、収益も上がるので工賃に反映されています。



理想と現実のはざままで

最後に、「紀南障害者就業・生活支援センター」へ向かいます。こちらでは、就業と生活の支援を一体的に行っています。「やおきの他の事業とは違い、うちの場合は大変厳しいです」と所長の清水望さんと言います。「授産施設の場合は、法人内で済む話もあるが、就労・生活支援事業になると地元企業を相手にするため、甘えは許されないので」と続けます。というのは、例えば、通所授産施設の利用者が、利用予定日当日に体調が思わしくなく、当日になってからキャンセルすることは可能ですが、就労・生活支援事業の場合、当日になってから急に行けなくなると企業にも人員確保の面で迷惑をかけることになってしまいます。

「うちと関係のある企業さんは、100人未満規模

の企業さんがほとんどです。1人雇用するにも気を遣うのにもかわらず、障害者雇用に協力していただいています。そんな厳しい状況の中、『すみません、今日は行けなくなりました』と何度も言えるわけがありません」と清水さんは現状を説明してくれました。

「急に休むということも、利用者の症状を慎重に見極めるといふ観点からは大切なのですが、それが何度も続けばその本人が信頼を得ることはできません」。24ページの図2のとおり、やおき福祉会における紀南障害者就業・生活支援センターの就労支援の役割は中心的なものです。「利用者に応じて、一般就労が厳しいのであれば、一度やおきの別の事業所でやり直してみてもあります」と続けてくれます。利用者本人を取り巻く生活環境だけでなく、企業内の雰囲気やカラーによっても、その都度、柔軟に対応することが難しいことかと思えます。

最後に、やおき福祉会内の多くの事業所をすべて紹介してくれた柳瀬さんが言いました。「われわれの理想も大切だけれど、現実を直視し、そこで何が起きているのか、その状況に応じてやるのが決まってくる。理念だけ並べてもなにもできないければ意味がない」。



紀南障害者就業・生活支援センターの職員(後列左から2人目が清水さん)

このようなバランス感覚に優れている方々に支えられているやおき福祉会。今まで以上にその取り組みがクローズアップされることを望みます。